

ボランティア コーディネーションカ 3級検定

共催団体

認定NPO法人

日本ボランティアコーディネーター協会

2020年12月12日（土）

報告

「ボランティアコーディネーションカ3級検定」を開催！

12月12日（土）、本学の学生・教職員を対象に「ボランティアコーディネーションカ3級検定」を開催しました。

「認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会」と共催で開催する本検定は、2018年度から本学を会場に開催しており、今年で3回目となりました。ボランティアや社会についてテキストで学び、そして直前研修で講師の方に解説していただくことにより、ボランティア活動を続けていく中で感じる「ボランティアってなんだろう」という悩みに対するヒントや社会におけるボランティア活動の意義を学び、社会参加を支えるチカラであるボランティアコーディネーションカについての理解を深め、身に付けてきた支えるチカラを「検定」という社会にアピールできる「形あるもの」にしていただければと考え、実施しています。

今回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により対象者が限定されたこともあり、例年より少ない9名の受講となりましたが、午前から午後にかけて行われる直前研修の受講、そして夕方に行われる検定試験の受験に取り組みました。

当日の様子

まず初めに主催者挨拶に加え、受講生に安心して参加いただけるように、今回実施している感染症対策等についての説明をしました（詳細は右に記載しています）。さらに、講師の後藤 麻理子さん（日本ボランティアコーディネーター協会 事務局長）から、協会についての紹介や本検定への思い、3級検定の位置付け・ねらいなどについてお話しいただいた後、10時過ぎからの事前研修が始まりました。

直前研修では、事前に配布されているテキストの内容について、解説していただきます。後藤さんに加えて、講師・検定委

直前研修の様子



員として、三田 響子さん（相模原市社会福祉協議会）にもお越しいただきました。この研修は、昼食時間などを挟みながら16時30分まで長い時間行われましたが、途中の休憩時間にも、じっくりテキストを読み込んだり、受講生同士で疑問点を確かめ合ったり、講師に積極的に質問したりする様子が見られました。

受講生の皆さんは、17時からの検定試験でもとても集中されていたので、これまでの学びの成果を発揮できたのではないかなと思います。

今年はコロナ禍の開催となり、受講者9名と少人数ではありましたが、充実した直前研修・検定となりました。

今回実施した感染症対策について

例年の検定では、近隣の大学や行政とのボランティア関連ネットワーク（ボラネット多摩）の方々にも受験していただいていたのですが、コロナ禍での開催となった今年度は、本学の学生教職員のみを対象として、感染症対策を徹底しました。

●受験される方に対応いただいた事項

- ・当日の朝、自宅にて「検温と自身の体調（息苦しさ、強いだるさなどの症状の有無等）」確認
- ・軽度であっても何らかの症状が確認される場合は、参加不可とする。
- ・マスクの着用、手洗い及び咳エチケットの徹底

●本学の感染症対策

■消毒の徹底

- ・共用部（ドアノブなど）や机・椅子などは、試験前の清掃に加え、消毒液による定期的な消毒の実施
- ・開場入口に消毒液を設置、各自消毒後入室

■検温の実施

- ・入口で検温を実施

■飛沫防止対策

- ・講師、対応職員のマスク着用を徹底
- ・教壇に飛沫感染防止の亚克力板設置

■換気

- ・換気に重点を置いた空調運転を行い、2方向の換気を実施

■会場レイアウト

- ・受験者間に適切な間隔を確保して検定を実施

■食事の禁止

- ・会場での食事を禁止する ※水分補給は可能